

## デザインノートについて

## 1. 目的と方針

長期間かつ多くの関係者が絡むプロジェクトを適切に進めていくためには、**計画・設計・施工に至る様々な段階で、立ち戻ることのできる“計画の柱”**をまとめておくことが重要です。

そこで、基本設計と並行し、**リニア駅前の考え方や目指す空間像を、地域の人々や多くの関係者・関係機関と共有する**ための資料として、『(仮称)リニア駅前空間デザインノート』を作成します。

本資料は、市民向けのパンフレットにもなり、また、関係機関や将来の設計者・施工者などへの説明資料・意思伝達資料としての役割を担い、**基本設計の概要版**になるものです。そのため、模型写真やパースなどビジュアルに配慮した資料に加え、できるだけ専門用語を用いない説明により、コンパクトでありながら、計画の考え方をきちんと伝えられる資料とします。

また、内容については、市民ワークショップ・学識者専門委員会・リニア駅周辺整備デザイン会議での議論の内容や意見を反映し、市民との協働によるリニア駅前の計画をとりまとめたものとします。

## 2. 構成案

## (1) リニア駅・駅前空間の考え方

⇒地域やエリアの特徴や魅力も含め、テーマや設計の方針を記載【次頁参照】

## (2) 駅前全体の空間デザイン

⇒テーマや設計の方針を実現するために大切にすべきことを、駅前空間の全体イメージとともに記載（今後、内容を検討）

## (3) 設計において大切にすべきことと空間・活動イメージ

⇒(2)で提示した、テーマや設計の方針を実現するために大切にすべき5つについて、それぞれの空間イメージや活動イメージを記載（今後、内容を検討）

## (4) 全体にかかる統一事項

⇒舗装などの素材や色彩、植栽など、駅前全体で統一する要素についての考え方を記載（今後、内容を検討）

## (5) 魅力発信コンテンツのビジョン

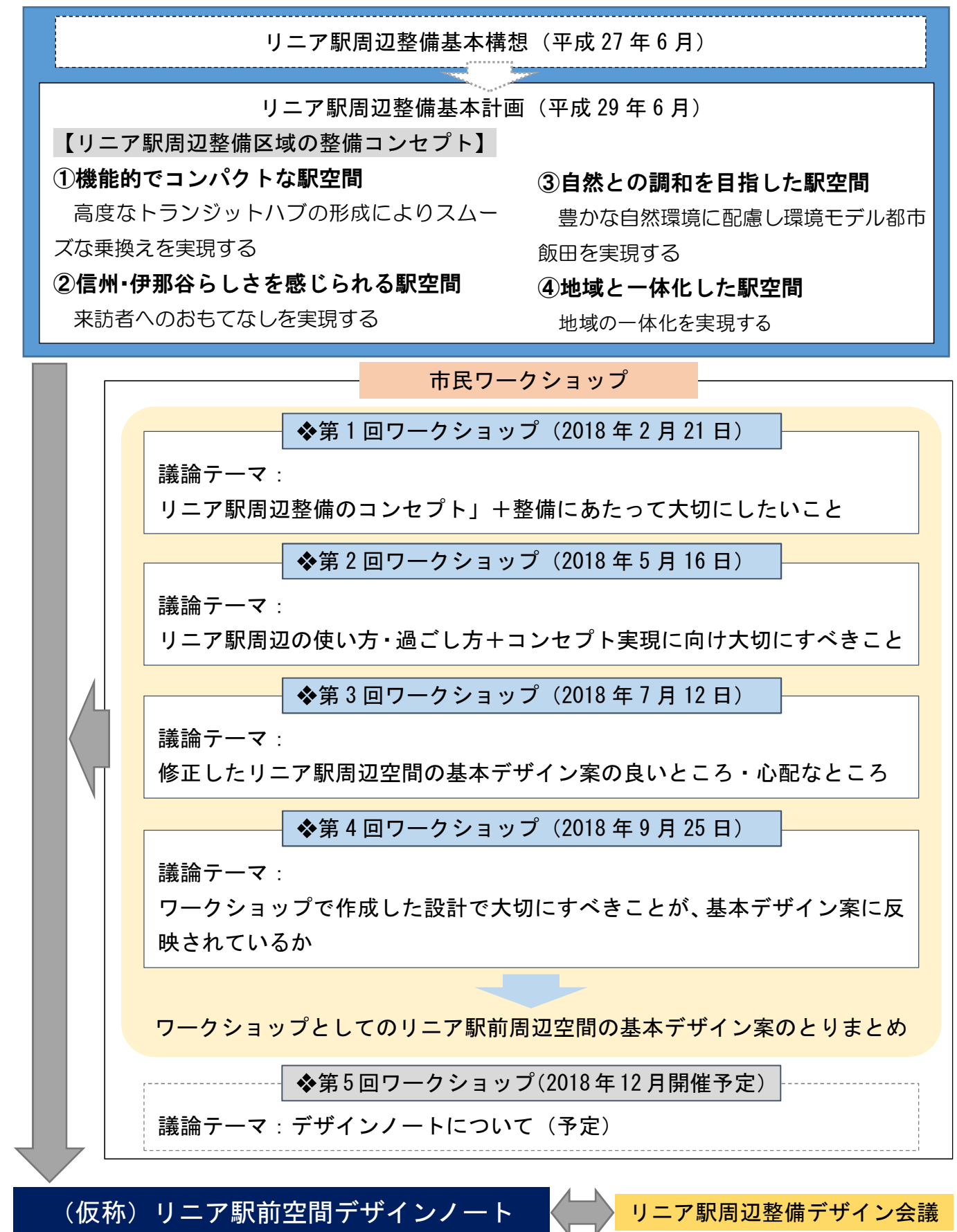
⇒駅前空間で発信するコンテンツ（サービス、体験など）の内容、対象者などの考え方を記載（今後、内容を検討）

## 3. 「(1) リニア駅・駅前空間の考え方」について

本デザインノートの根幹となるものであり、「これまでの整備コンセプト」と、「テーマ」、「設計において大切にすべきこと」で構成しています。

検討にあたっては、リニア駅周辺整備基本構想（平成27年6月）に基づいて策定した「リニア駅周辺整備基本計画（平成29年6月）」を踏まえています。また、市民ワークショップでの議論の成果を盛り込んでいます。

## ■ (仮称) リニア駅前空間デザインノート検討の流れ【イメージ】



リニア駅周辺整備区域の整備コンセプト

①機能的でコンパクトな駅空間

高度なトランジットハブの形成によりスムーズな乗換えを実現する

②信州・伊那谷らしさを感じられる駅空間

来訪者へのおもてなしを実現する

③自然との調和を目指した駅空間

豊かな自然環境に配慮し環境モデル都市飯田を実現する

④地域と一体化した駅空間

地域の一体化を実現する

※リニア駅周辺整備基本計画（平成29年6月）より

テーマ（案）

『結いの広場—暮らしと風景をつなぐ駅』

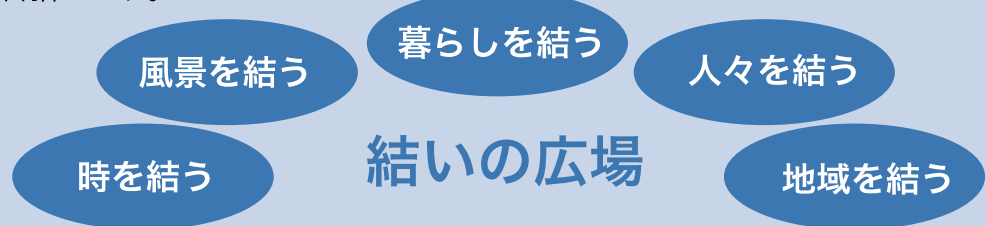
本地域は、南アルプスや中央アルプスを望む伊那谷南部に位置し、三州街道や天竜川の交流を通じ、東西日本を結ぶ文化の要地として発展してきました。この信州・伊那谷に、リニア中央新幹線駅が開業されることにより、人、モノ、情報等の交流と交通利便性が飛躍的に高まります。

また、この地域は、旧来から農業等を生業として、田んぼや集落が点在する田園環境を有する一方、交通の要所としての地理的条件と、進取性と学究性に富んだ市民の気質が、食文化や人形文化等の飯田の魅力を育んできました。

こうした地域の成り立ちや暮らしの履歴を尊重し、先人たちの意思を引き継ぎながら、信州・伊那谷の新たな「結び目」を生み出す駅前広場を目指します。

その結び目は、伊那谷の風景に溶け込み、人が主役となる場所として、そして、来訪者が信州・伊那谷の風景と出会い、この地の文化や暮らしを感じながら、新たな交流と地域の活力を育むことができる場所とします。

大都市と緑豊かな環境が結びつく新しいライフスタイルの提供、伝統技術と先端技術の融合など、リニア中央新幹線を介した広域的な繋がりにより、「過去と未来」、「高速移動とスローライフ」など、この地だからできる信州・伊那谷の風景・暮らしをつなぐ、やわらかな結び目としての広場＝「結いの広場」を目指します。



設計方針 コンセプトやテーマの実現に向け、設計で大切にすべきこと

1) アクセスやバリアフリーに優れた交通環境 ・・コンセプト①・④に対応

- ・南北一体の広場に接し、路線バスや観光バスの停車する北口交通広場と、地域の人々が使いやすい南口乗降場を設け、コンパクトで高度なトランジットを実現します。
- ・改札から屋根のある平坦な道を歩いて乗り換えができるよう天候にも対応したバリアフリー環境とし、サイン類をはじめユニバーサルデザインとします。
- ・車の利用者が乗り換えやすい駐車場を設けます。
- ・学生や高齢者など車に乗らない人たちが利用する公共交通などのアクセスに配慮します。

2) 住民や来訪者の居場所となり、豊かな時間を過ごせる駅前空間 ・・コンセプト①・④に対応

- ・駅の中心に南北をつなぐ広場を設け、それを囲むように交通広場や魅力発信・生活利便機能を備えた施設を配置することで、人が主役の緑とにぎわいの広場をつくります。
- ・お茶や買い物を楽しんだり、地元の食材やお酒を味わったり、家族でのんびり過ごしたり、散歩で立ち寄ったり、健康づくりをしたり、学生が課外活動をしたり、様々なイベントで盛り上がるなど、リニアに乗る人も乗らない人も、若い世代も高齢世代も楽しめる空間とします。
- ・広場空間は、大小様々な使い方ができ、冬の寒さや夏の暑さといった気候にも配慮した居心地の良い空間とします。
- ・水引きや人形劇など地域の伝統文化の継承や、どんど焼きや盆踊りなど地域のコミュニティの絆を高める空間とします。

3) 伊那谷の風景に溶け込み、その魅力を引き出す駅前空間 ・・コンセプト②・③に対応

- ・天竜川に向かって傾斜する地形、豊かな流れの用水、南アルプスや伊那山地への眺望、樹木や草花など地場の植生、多様な生態系という地域の特徴を活かし駅を出た瞬間から飯田や信州らしい風景を五感で味わえるランドスケープとします。
- ・人が主役の広場と地場の木材を利用した大きな屋根を合わせ、自然の魅力と都市的な魅力が融合した、ここにしかない空間をつくります。
- ・歩くのが楽しくなる回遊性の高い駅前空間とします。

4) 様々な人のつながりと、伊那谷全域へと誘い出すきっかけをつくる駅前空間 ・・コンセプト②・④に対応

- ・来訪者と地域住民といった人と人の出会いや、来訪者と地場産品といった人とモノの出会いが生まれる空間とします。
- ・長野県全域や伊那谷周辺の魅力的なエリアやお店、伝統芸能やアクティビティを伝える情報提供など、長野県や伊那谷全域へ誘い出すきっかけをつくります。
- ・近隣住民の生活環境を守りつつ、周辺に良い波及効果を生み出すよう、敷地内だけでなく周辺地域との回遊性を確保します。
- ・将来にわたって持続的に活用されるよう、運営者・事業者の様々なニーズに対応できる空間とします。

5) 時代を先取りし、変化に対応できる計画 ・・コンセプト①・③・④に対応

- ・限られた土地を有効活用するために、平常時とイベント時など、さまざまな使い方ができるフレキシブルな空間とします。
- ・自動運転や次世代モビリティといった発展目覚ましい技術や、再生可能エネルギーや低炭素技術など環境技術に加え、ライフスタイルの変化など社会のニーズにも対応できるようにします。
- ・グリーンインフラ（自然の多様な機能を活用したインフラ）を積極的に用い、環境に優しく、防災機能と維持管理に優れる、持続可能な空間をつくります。